



天^{てん}寺^じ龜^{かめ}井^い活^{かつ}鑑^{かん}
上



2782
13





~ 13
 2782
 遠
 1961
 168
 改メ

~ 13
 2782





子牛

あられ
つるも木の
根化けてる此のくわら
その花いてふれあへる
してせよ
る

本層を

つるは木の下のくわら男
つるの厚くアをれん
焚て灰をさうけて

又その本層を焼てあつ
たふいふと云
夜のめ



早十人より
その中にま命ととちてくるものす本の
下には

も人おして
くわら
の下の

その灰かけて魁の
くわらのも

あられ
つるも木の
根化けてる此のくわら
その花いてふれあへる
してせよ
る



寺の
 人の
 長
 の
 心
 だ
 ら
 ぬ
 仲
 飛
 天
 市川
 宗之
 次
 村
 原
 の
 家
 に
 居
 る
 時
 分
 の
 事
 だ
 ら
 ぬ
 天
 王
 寺
 の
 御
 堂
 の
 前
 に
 居
 る
 時
 分
 の
 事
 だ
 ら
 ぬ
 天
 王
 寺
 の
 御
 堂
 の
 前
 に
 居
 る
 時
 分
 の
 事
 だ
 ら
 ぬ

橋
 津
 玉
 の
 子
 の
 事
 だ
 ら
 ぬ
 天
 王
 寺
 の
 御
 堂
 の
 前
 に
 居
 る
 時
 分
 の
 事
 だ
 ら
 ぬ
 天
 王
 寺
 の
 御
 堂
 の
 前
 に
 居
 る
 時
 分
 の
 事
 だ
 ら
 ぬ
 天
 王
 寺
 の
 御
 堂
 の
 前
 に
 居
 る
 時
 分
 の
 事
 だ
 ら
 ぬ



の神の
 風ひ
 十に
 ひめを
 して
 あん
 八

これも
 せし
 ち
 ろ
 う
 う
 う
 う

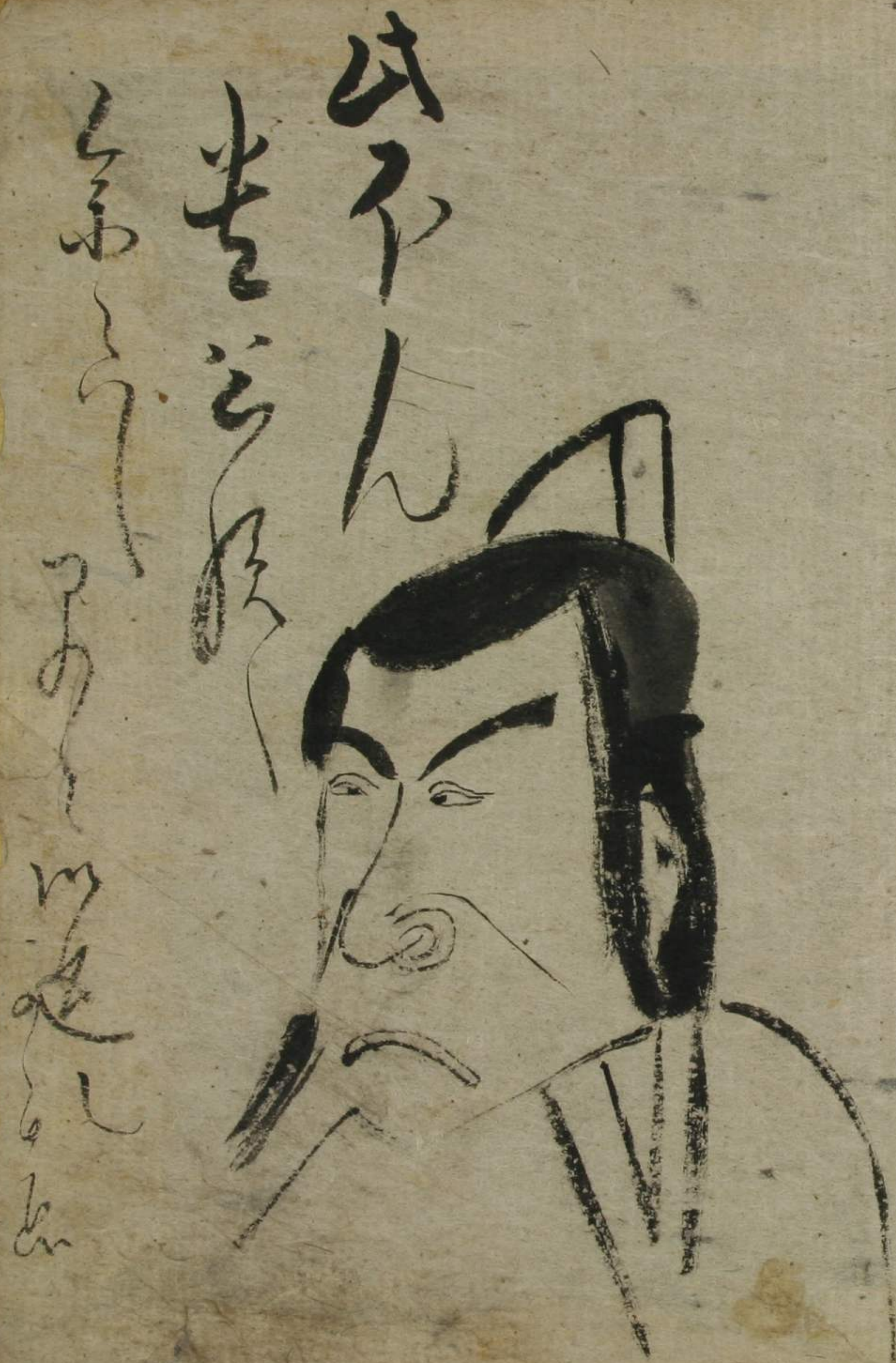


禮拜石

凡
 此
 此
 此
 此

此の神
 二月廿二日
 天正寺にありん
 三月廿二日
 天正寺にありん





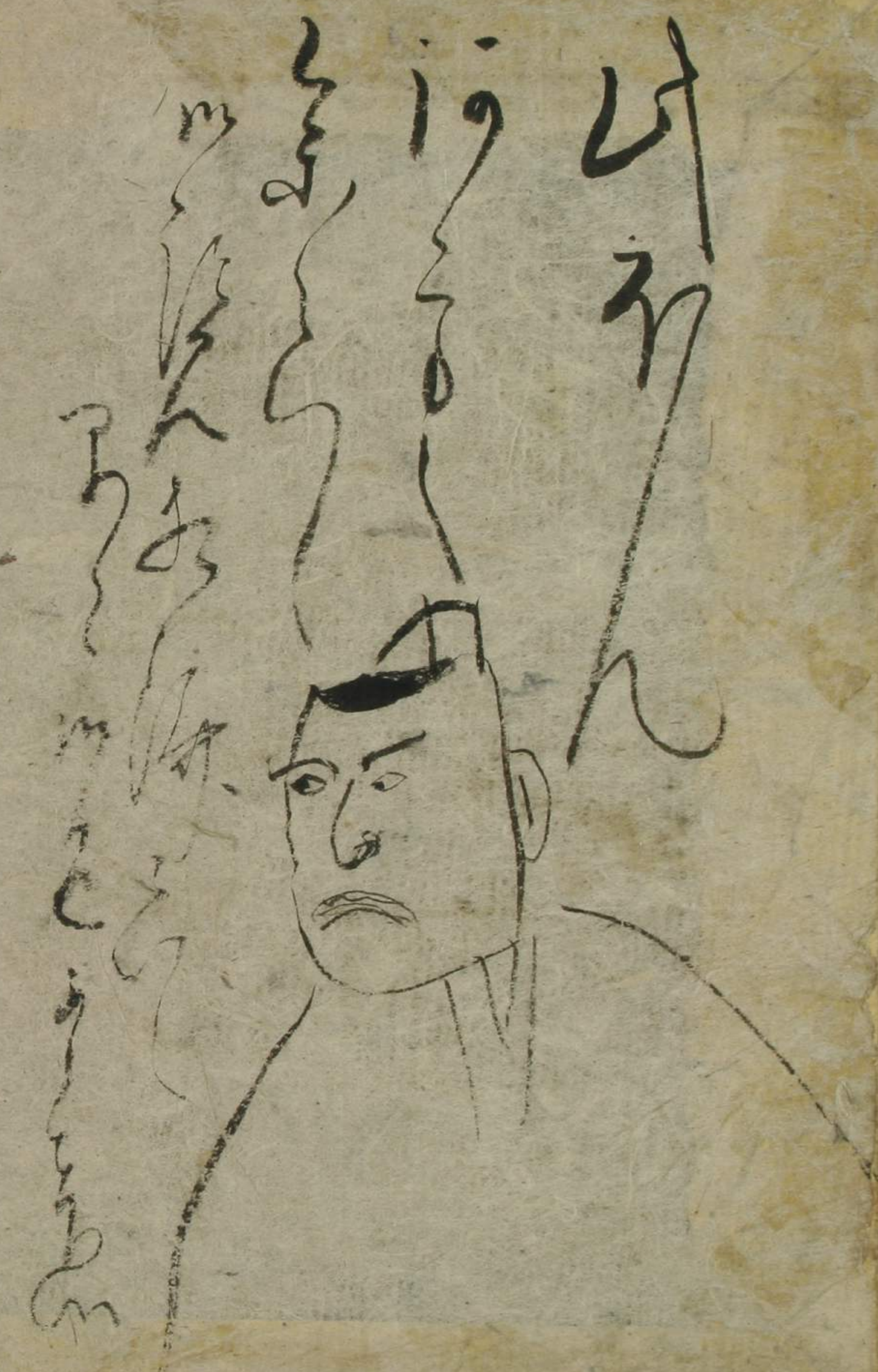
鳥居清經画



天壽鏡集活鑑



天壽鏡集活鑑
其本
何
...











十一
 竹の
 葉の
 影

大和の
 病

竹の
 葉の
 影

竹の
 葉の
 影

竹の
 葉の
 影

竹の
 葉の
 影

竹の
 葉の
 影

竹の
 葉の
 影

竹の
 葉の
 影

竹の
 葉の
 影

竹の
 葉の
 影

傳法輪石

竹の
 葉の
 影

竹の
 葉の
 影

神田染所式
 江戸七四



引導石

赤石

まよひてけいひんさ
 をこゝろに代り
 するはすし
 するはすし
 するはすし

いふ人氏
 櫛を
 石の
 石の
 石の

鳥居清經画



毛筆の巻井活版



毛筆の巻井活版









白雲若狭長門侯波尾天王寺如來の御
年中うあつて目を交は内
け上はこてなまはてた子
あつてあてえんい
ひのこいあちふこりく

七寶大塔



あつてあてえんい
ひのこいあちふこりく

おにてあまの
まの安に

いづの味
味門

あつてあてえんい
ひのこいあちふこりく





Handwritten vertical text in cursive script, likely a signature or a note related to the drawing above.



荒陵池

金孝の池ありち子傳曰
故田院新地池号荒
陵池其原源青竜恒少居
こころなり合てこれを天王寺
の之水
石四
の七ヶがわり地玉の人
こふあふいよしく氣を付
こぬくふ又まよひ

鳥居清経画

子
可
為
心

子
可
為
心